



人間万事塞翁が馬

校長 尾崎 淳一

C M F の出発式で、私は少しだけ時間をいただき、竜北 1 年生の皆さんに次のように話しました。

私は「元国語教師」ですので、漢文の話をしてします。中国の古い言葉に「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。簡潔に言えば、「何が幸福で何が不幸かは簡単に決まるものではない」という意味です。詳しくは、バスの中で国語の先生が教えてくださるでしょう。

今日は明け方まで雨が降っていましたね。「砂の造形はできるかな」と心配した人もいるでしょう。しかし、晴れの日と比べて、①砂が湿っていて固めやすい、②気温が低くて体調管理がしやすい、③私のように日焼けが苦手な人も安心、などのメリットもたくさんあります。

C M F の 2 日間では、失敗したりピンチに陥ったりするがあるかも知れませんが、そんなときも俯くのではなく、**素敵な仲間とともに**前向きに頑張ってください。「人間万事塞翁が馬」のとおり、このピンチが幸か不幸かは分らず、**必ずチャンスに変えられるはず**ですから。

「人間万事塞翁が馬」のように、古代中国の逸話をもとにした言葉を「**故事成語**」と言います。有名なものに「矛盾」「蛇足」「五十歩百歩」「漁夫の利」などがあり、現在も広く使われています。ちなみに、「人間万事塞翁が馬」は、中国の前漢（紀元前 206 年～8 年＝日本の弥生時代！）の学者である劉安（りゅうあん）が編んだ「淮南子（えなんじ）」という書物にある次のエピソードが基になっています。

- 国境の塞 [=とりで] の近くの村に、一人の翁 [=老人] が住んでいました。
- ある時、この老人が飼っていた馬が国境を越え、隣の国に逃げてしまったので、周りの人々はその不幸に同情しました。しかし、老人は「これは幸運かもしれない」と言いました。しばらくすると、馬は立派な他の馬を引き連れて、老人の元へ帰ってきました。
- 貴重な馬が増えたので、周りの人々は大いに祝福しましたが、老人は「これが不幸を引き起こすかもしれない」と言いました。その通りに老人の息子が落馬し、脚を骨折する大怪我を負ってしまいました。
- 周りの人々は老人の息子を見舞いましたが、老人は「このことが幸運を呼ぶかもしれない」と言いました。翌年、隣国の大軍が国境を越えて攻め入ってきました。この戦いで村の若者の多くが命を落としましたが、足を怪我していた老人の息子は戦いに出られないことが幸いし、命を落とすことはありませんでした。

塞翁のごとく一つのことに一喜一憂せず、「順調な時は気を引き締めて」「苦しい時も前を向いて」、自分を信じて一歩ずつ進んでいけば、きっと幸せが巡ってくるはずですよ。私も常にピンチにたたされている気がしますが、いつか大きなチャンスが訪れると信じています。

それにしても、C M F のしおりの表紙、**流行語**をいち早く取り入れていて素晴らしい出来栄ですね。私の採点は **100 点満点**です！

21 日からの修学旅行に向けて、私の大きなバッグはなぜかまだ空っぽのままで焦りを感じる今日この頃です。しかし、「人間万事塞翁が馬」を信じる私ですから、きっと何とかなるに違いない……、ということはないかなので、間に合うように必死に準備します！



竜北生の「よさ」の一つに**素敵な挨拶**があります。澁瀬とした声や会釈による礼儀正しい挨拶はとても気持ちのいいもので、ご家庭での支援の賜物と感謝いたします。今後の修学旅行や職場体験など、**実際の社会の場における竜北生の爽やかさ**にも期待しています。

（令和 7 年 5 月 20 日）